さくら小学校だより　　令和８年１月２１日

# さくらんぼ　No.９

## 人間万事塞翁が馬

さくら小学校 校長 大砂 直樹

（少し日は経ちましたが） 謹んで新年のお慶びを申し上げます

私事で恐縮ですが、年末年始は特に遠出することなくのんびりと過ごしています。そのような中、つい見入ってしまうのが、今や正月の風物詩となっている箱根駅伝です。どの出場大学も私自身には縁もゆかりもないのですが、それでも毎年楽しく視聴しています。今年も「シン・山の神」の激走や、シード権をめぐる熾烈な争いにすっかり目を奪われてしまいました。

４、５年前になりますが、この箱根駅伝に息子の同級生が出場しました。区間で目立った活躍こそありませんでしたが、それでも狭き門を突破してチームの代表に選ばれたことを、我が事のようにうれしく、誇らしく感じました。彼が帰省した際に話を聞くと、日の出前から走り出し、授業後の夜の練習では更にギアを上げ、他の大学や学連開催の記録会にも参加する。そうしてチーム内外で互いに切磋琢磨し続けていたそうです。彼は小学生の頃から持久走が速かったわけではありません。校内マラソン大会でも 10 番台の選手でした。それを思うと、箱根駅伝出場という名誉をつかむまでには、不断の努力と誘惑に負けない精神力、そして何より地道に継続する真面目さがあったに違いありません。

「人間万事塞翁が馬」の通り、人生、どこで何がきっかけとなって才能が開花するかは分からないものです。本人の志と努力が、不可能を可能にするのだと彼に教わった気がします。懸命に襷をつなぐ学生たちの姿に、改めて「努力することの尊さ」を深くかみ締めた新年のスタートとなりました。

## ―幸せいっぱいを目指して！―

教頭 吉弘 祐治

「ウェルビーイング」。最近耳にする機会が多くなった言葉ではないでしょうか。WHO（世界保健機関）によるとウェルビーイングとは、「身体的・精神的・社会的に満たされ、幸福で充実した状態」と定義されています。これを子供たちの姿に即して捉え直すと、「心も体も元気で、自分らしく幸せに過ごせていること」と言えるかもしれません。近年、官民を問わずウェルビーイングの重要性が各方面で強調されています。

ウェルビーイングを高めていく上で欠かせないのは、子供たちが「ありのままの自分でいていい」と思える安心できる居場所があることです。この安心感があって初めて、子供たちは失敗を恐れずに未知の領域へ挑戦できるようになります。そして、自分で目標を見付け、試行錯誤しながら進む経験が、子供たちが自ら幸せをつかみ取っていくための大きな力となります。

さて、迎える 2026 年は 60 年に一度の「丙午（ひのえうま）」にあたります。気力が高まり、華やかで圧倒的なエネルギーが生み出される年だと言われています。私たち大人の役割は、子供たち一人一人が持つその子らしいエネルギーを絶やさぬように寄り添い、共に歩む「伴走者」でいることではないでしょうか。

子供の持つ無限の可能性がより一層輝きを増すように、学校・保護者・地域の皆様と力を合わせて、同じ歩幅で進んでまいりたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。